

膨大な遺物

長竹遺跡の環状盛土では、これまでに縦38cm×横59cm×高さ14cmの箱約1200箱分の遺物が出土しました。最終的には2500箱(4tトラック27台分!)の出土が予想されます。これは、埼玉県内の発掘史上最大級の出土量です。

膨大な遺物は主に盛土上面から出土しました。



平成24年度第8回遺跡見学会資料
平成24年11月17日(土)開催



かぞし おおごえ
加須市大越

長竹遺跡(第3次)

はくつ じょうもんじ だい かんじょうもり ど
～発掘!! 縄文時代の環状盛土～

長竹コレクション

出土遺物の大半は土器や石器をはじめとする生活用具ですが、まつりの道具やアクセサリーなど、珍しいものもたくさん出土しています。



人面付き注口土器

正面に顔の造形を加えた注口土器。注ぎ口は折れています。



土偶

土偶の顔。耳を表す穴が開いており、髷をゆっています。



耳飾

当時のピアス。透かし模様が施されています。



人面付き土版

顔を表現した板状の土製品。逆立ちの状態で出土しました。



岩版

線刻された石。穴も開いています。



大型石棒

長さ26.5cm。根元が折れています。



長竹遺跡は、利根川の堤防強化工事に先立ち、平成22年5月から調査を行っています。

今年度の調査では、縄文時代後期(約3500年前)～晩期(約3000年前)の環

状盛土遺構と、その下から晩期の墓壙(お墓)が良好な状態で発見されました。そこからは大量の土器や石器、アクセサリーなどが出土しています。

現在の長竹遺跡周辺は起伏の少ない低地ですが、当時は小高い台地でした。数百年にわたって営まれた遺跡の状況から、長竹遺跡は縄文人にとって住みやすい場所であったことがうかがえます。

主催:埼玉県教育委員会
協力:公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
共催:加須市教育委員会
国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所



「環状盛土」って何？

環状盛土は窪地を囲むように土が盛られた縄文時代の遺構です。後期から晩期にかけての大規模な遺跡でよく見つかります。近年までその存在がわからなかったため、盛土の手順や目的など、詳しいことはまだわかっていません。

環状盛土遺構の範囲

現在掘っている調査区(A区)は、環状盛土全体の約5分の1と予想されます。盛土の厚さは最大2m、幅は20数mにも及びます。



今は北盛土の調査を終えて、南盛土の調査を進めてるよ！



盛土の成り立ち

～約16000年前
…火山灰の降灰によりローム層(赤土)が形成される。



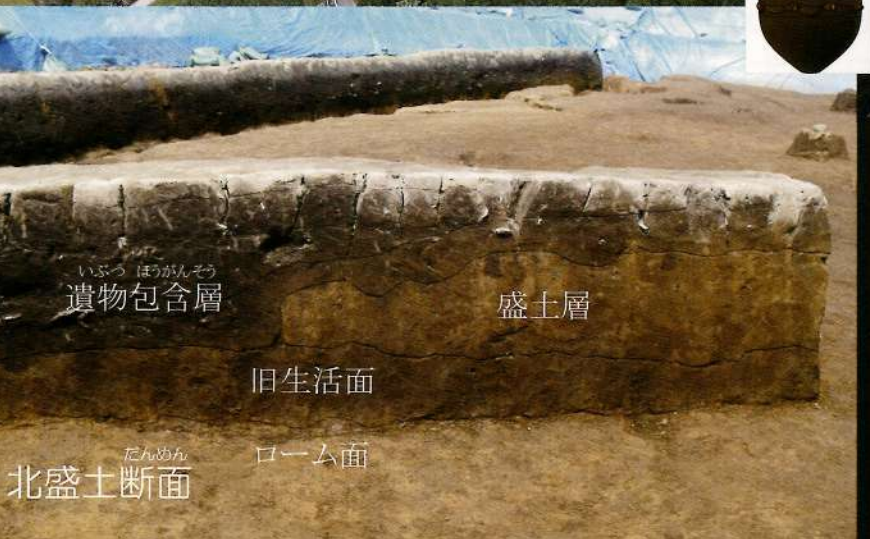
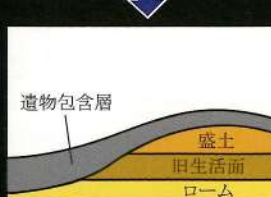
～約3500年前
…盛土される前の人々が暮らし、旧生活面が形成される。



約3500年前
…ローム、旧生活面を掘削し、土を盛り、その上で暮らし始める。



約3500年前～2700年前
…盛土上でくらしたり、お墓を造る。新たな生活面が形成される。



現われた墓壙群

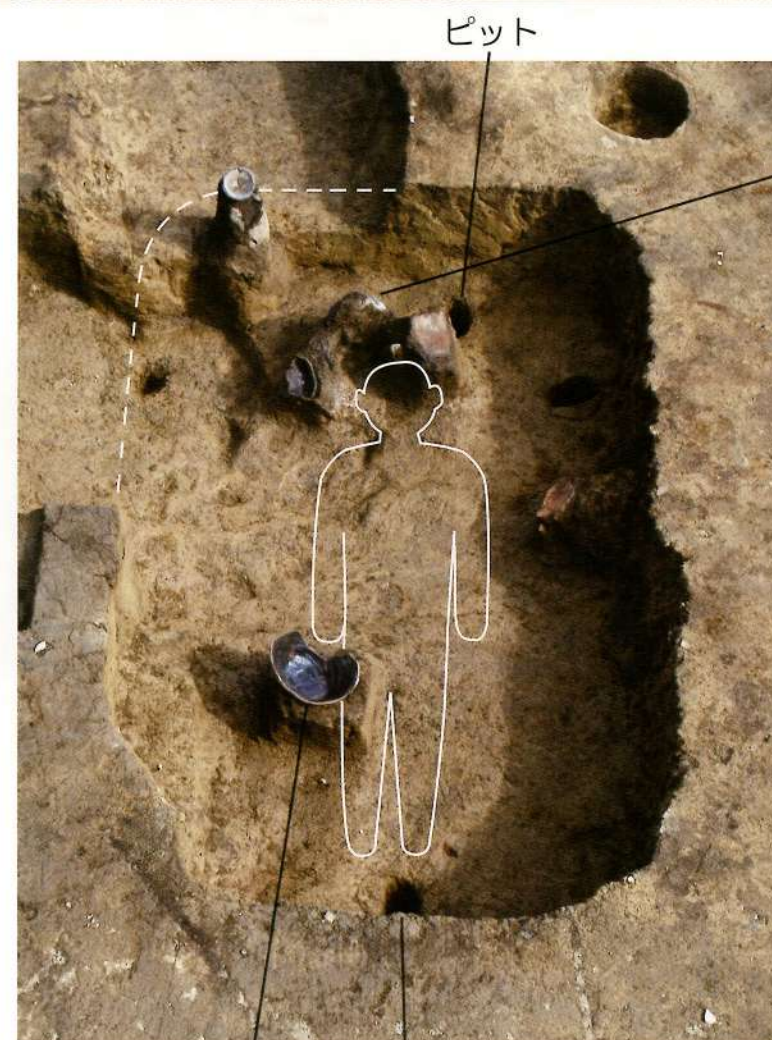


北側の盛土の下から、墓壙(お墓)約60基が重なり合って発見されました。

お墓は長軸が斜面に平行するものと、直交するものがあります。盛土の断面の観察から、斜面に直交するお墓の方が平行するものより後に造られていることがわかりました。

右に示したお墓は長方形です。隅から土瓶のような形をした注口土器、反対側から浅鉢や、深鉢の大破片が出土し、意図的に置かれていたと考えられます。また、長辺の両端には、ピット(小穴)がありました。

ピットとピットの間の距離は約150cmでした。これは縄文人の平均身長とほぼ同じです。お墓の大きさを考えると、死者は足を伸ばして寝かされていたようです。右上写真の場合、頭の脇に注口土器、足元に浅鉢がありました。



注口土器

お墓からはこの他に小壺や耳飾、垂飾などが出土するなど、お墓によって遺物の種類や量に差がみられました。



小壺



垂飾



浅鉢

